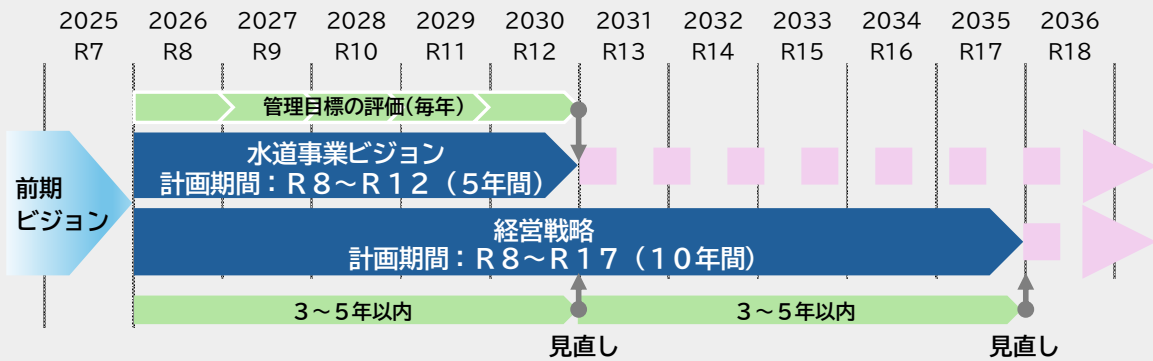


武豊町後期水道事業ビジョン 【概要版】

位置付け・計画期間



現状評価と主な課題

現状評価

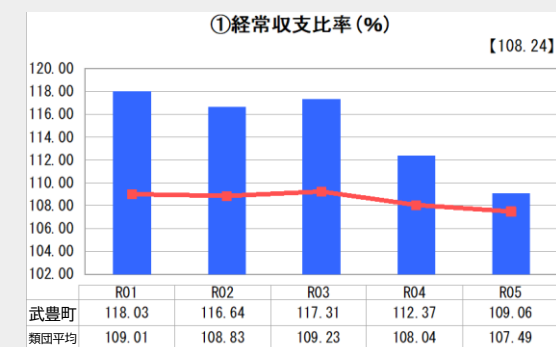
課題

【安全】 【管路経年化率】 令和2年以降、毎年増加 【管路更新率】 前期ビジョンの目標値以下	➡	・安全な水質の確保 ・安定した水の供給
【強靱】 【管路耐震化率】 全国平均以下	➡	・水道管路の強靱化 ・大規模災害への対応力強化
【持続】 【職員数】 全国平均以下 【更新需要】 施設更新費の増加見込み	➡	・組織基盤の強化 ・健全な財政の維持 ・資産の効率的な利用

経営の状況

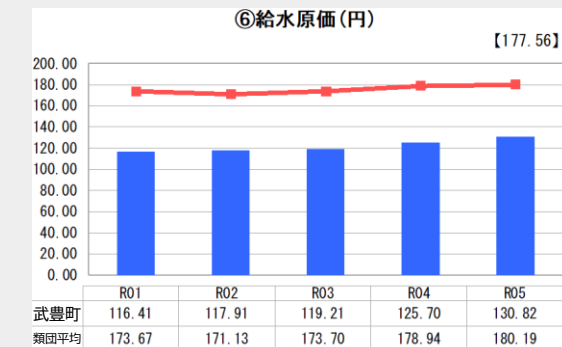
【経常収支比率】

→例年100%以上で推移しているが、年々減少の傾向



【給水原価】

→経営健全化を目指し費用削減を進めており、類似団体平均より安価



将来の事業環境

	給水収益	県水受水費	老朽管の延長*1
令和6年度	6.4億円/年	3.4億円/年	64.7km
令和17年度	6.3億円/年	3.6億円/年	158.0km

▶約1千万円の収入減 ▶約2千万円の支出増 ▶約93kmの延長増

*1 法定耐用年数40年を超過する管の延長

実現方策

基本理念

「安全安心を未来につなげ みんなで築くやさしい水道」

基本目標

主な施策内容

【安全】 安全安心な水を安定して供給する	・老朽施設の更新 ・水管橋やコンクリート構造物の定期的な調査 …etc.
【強靱】 災害に強い施設・体制を構築する	・重要給水施設管路の耐震化 ・基幹管路の耐震化 ・危機管理マニュアルの策定…etc.
【持続】 基盤強化により事業を未来につなげる	・官民連携の推進 ・広域連携の推進 ・水道料金の適正化 …etc.

これまでの経営効率化の取組み (一部)

取組み	実施内容
更新費用の見直し	ポンプ場の統合、廃止 基幹管路のダウンサイジング アセットマネジメントの見直し
広域連携	指定給水装置工事事業者の登録事務の共同化
民間活用	検針業務の民間委託 料金徴収等に関する窓口業務の民間委託

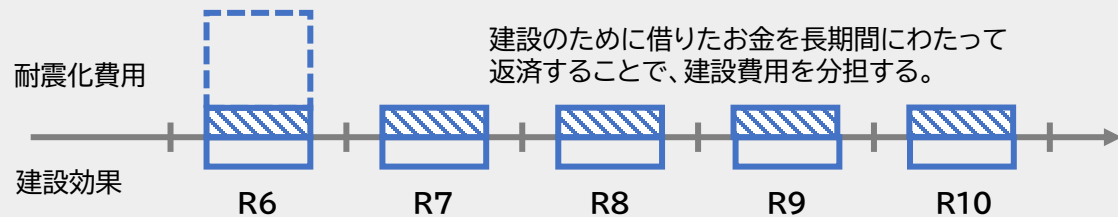
「経営戦略」により検証
(本編第6章、概要版裏面)

料金改定の必要性の検証

安定的かつ持続可能な事業運営に向けた経営目標と、現行料金体系を続けた場合の目標達成状況を示す。

【企業債の活用方針】

世代間の公平性を図るため、基幹管路の耐震化事業については企業債を活用する方針とする。

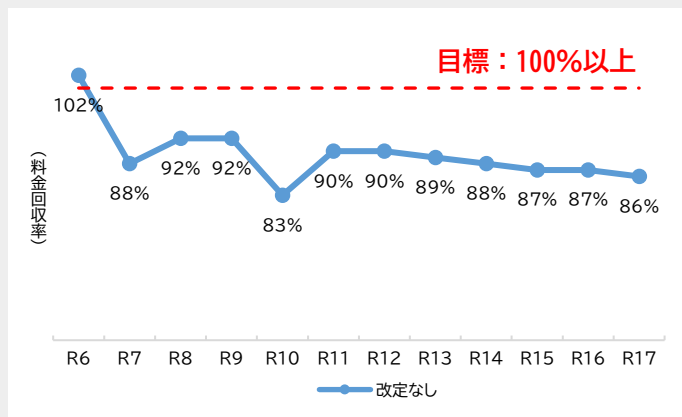


【料金回収率】

水道事業の運営を続けるためには、事業に必要な経費を給水収益で賄う必要がある。

【目標】
100%以上(本編P63)

【検証結果】
令和7年度以降、100%を下回る。

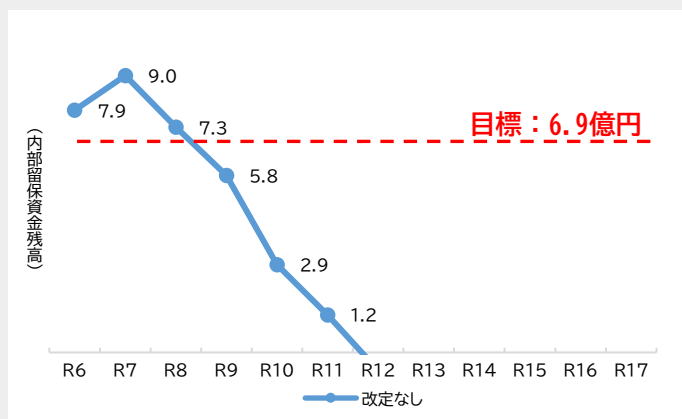


【内部留保資金残高】

通常の運転資金や設備投資、企業債の返済資金に加え、大規模災害などの突発的な事態に備えるため、常に一定額以上の内部留保資金を確保しておく必要がある。

【目標】
6.9億円以上(本編P65)

【検証結果】
令和9年度以降、6.9億円を下回る。



料金改定を実施しない場合、水道事業の運営が困難

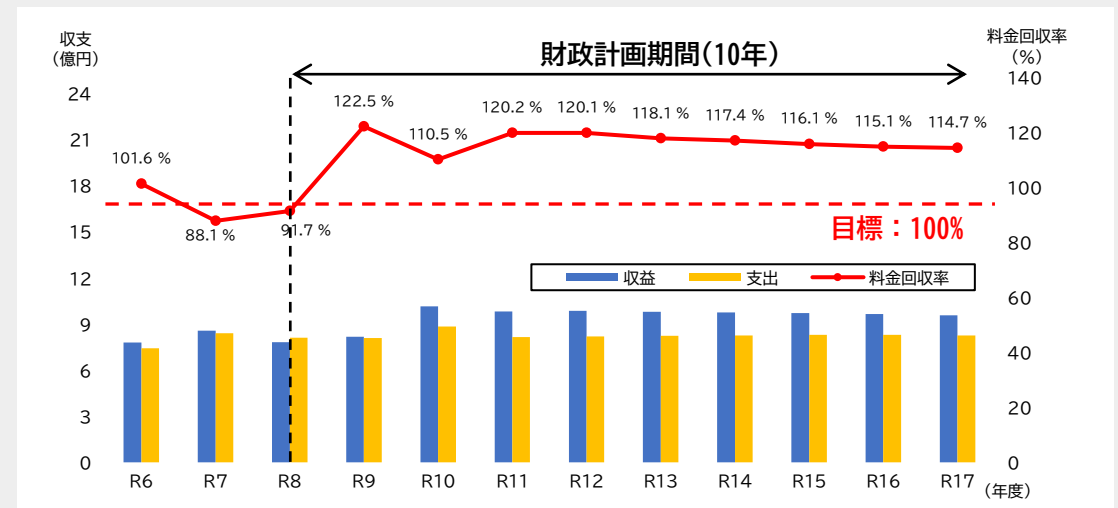
投資財政計画

目標達成に向けて必要な改定を行った場合の財政収支の見通しを示す。

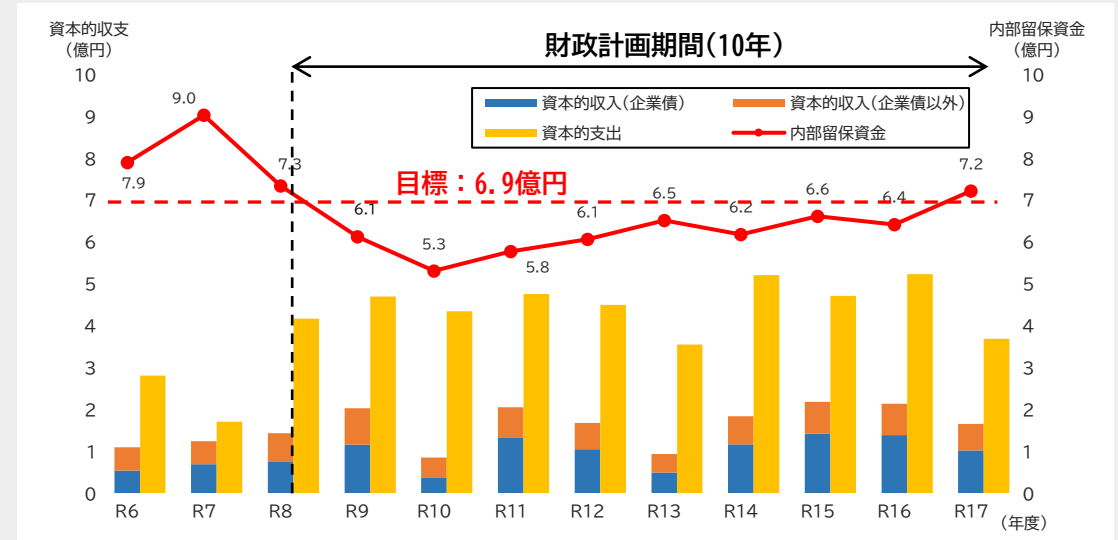
【試算条件】

- ・水道料金改定：令和9年度内
- ・平均改定率：33%
- ・起債対象：基幹管路の耐震化事業

【収益的収支】



【資本的収支】



長期的な財政見通し

将来にわたって水道事業の経営を維持することを目標として、令和9年度内に水道料金の改定を行う方針とする。